

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年2月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1174500577
法人名	社会福祉法人花園公益会
事業所名	フラワーヴィラグループホーム
所在地	369-1246 埼玉県深谷市小前田2677 (電話) 048-584-5550

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年2月5日

【情報提供票より】(平成20年1月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤3人, 非常勤6人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(1月17日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	78 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	埼玉よりい病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

フラワーヴィラは平成12年5月に深谷市内に開設されたホームである。運営母体は社会福祉法人で、ホームと同じ敷地内で、特別養護老人ホームや訪問介護事業所、居宅介護支援事業所を運営している。当ホームの特徴は、開設時から地域の一員として地域住民との交流を積極的に行っていること、医療体制のバックアップがしっかりしており、ターミナルケアへの取り組みが行われ、また、職員は安心して利用者の支援や介護にあたることができていることである。また、利用者の方々も穏やかに過ごしており、家族から信頼できるグループホームとしての一翼を担っている。なお、管理者・職員ともに介護サービスの向上に関して大変熱心であり、研修等にも積極的に参加されている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回外部評価では要改善とされた項目はなかったが、評価結果を振り返り、日々よりよい介護サービスを提供できるよう努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を職員全員に記入してもらうことで、職員のレベルアップや利用者への思いを深めていけるように取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、2ヶ月に1回のペースで開催され、グループホームの現状や行事の様子などが報告されている。この席で出された意見は、ホームの改善に役立てられている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族会などでの意見収集や訪問時における会話から、家族の抱える不安などを把握し、意見はホームの運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎週近所の方々が定期的に来所し、ホーム入口の草取りなどを近所の方々と協力して行なうなど、地域住民との交流を活発に行っている。今年度から自治会に加入して、さらに地域の一員としての関わりを持つように努めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成12年の開設以来、地域の一員として安心して暮らして行けるようにケアの向上に努めてきており、事業所独自の理念をつくり上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議の席などで理念の意識付けに努めており、職員間で理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎週近所の方々が定期的に来所し、ホーム入口の草取りなどを近隣の方々と協力して行なうなど、地域住民との交流を活発に行っている。今年度から自治会に加入して、さらに地域の一員としての関わりを持つように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、その書式を職員全員に配布して記入してもらうようにしている。評価の意義を理解し、介護ケアの向上や利用者への思いを深めていくようにしている。外部評価では、結果を話し合い、また運営推進会議に報告するなど今後のケアに生かすように取り組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回のペースで開催され、グループホームの現状や行事の様子などが報告されている。この席で出された意見は、ホームの改善に役立てられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの現状を報告するために定期的に会う機会をつくり、情報交換をするなど、市担当者との連携がとれている。認知症ケアの実践者研修を実施したりするなど、介護サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	保護者会で利用者の日頃の暮らしぶりなどの報告をしたり、面会に来られた際に管理者から報告したりしている。また、写真の掲載が豊富なホーム便りを発行しており、家族からは利用者の生活の様子が良く分かるという好評を得ている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに対する意見を言ってくる家族はいる。たとえば、もっと運営面で費用を使っていたきたいなどの意見が出されている。なお、管理者は家族と話し合いながら、運営がよりよい方向に向かうよう努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の異動がないし、職員の離職も殆どない。また、運営母体の法人内部での人事異動も殆どない。そのため利用者への影響はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員がそれぞれの経験や能力に応じて、法人内の研修や外部の研修を受けられるような体制が整備されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者がグループホーム協議会の役員であることもあって、事業者同士の交流や情報交換は盛んに行われている。地域のグループホーム全体のサービスの質の向上にも努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者が安心して生活できるように、体験入居等が可能であり、ホームの生活に馴染みながらサービスを利用できるよう心がけている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者から教えられたり、励まされたりの関係が構築されている。ともに支え合いながら、より良い関係づくりに努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の認知症状の重度化に伴い、思いや意向の把握が困難になってきているが、本人の日々の生活の様子から、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者がより良い生活を支援する介護計画の作成のため、家族やホーム職員、関係者を含めて話し合い、介護計画を作成している。ホームとしてもできるだけ家族の意見が計画に反映できるよう努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは3ヶ月に1回行っている。なお、利用者の状態が急変した場合は随時見直しを行い、利用者の状態にあった介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じて、通院介助を行ったり、理美容院や訪問歯科の利用等の支援をしている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携医療機関を設けているが、入居前からのかかりつけ医に受診できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方についてホームとしての方針があり、利用者がホームの利用を開始する段階で、家族などに終末期のケアについて説明し同意を得ている。開設以来、2名の方が医療機関の延命治療を希望せず、ホームで終末期を迎えており、その支援を行った。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の観点から、職員には入職の段階で、個人情報保護の重要性について説明し、個人情報保護の観点に沿ったケアを行うことの承諾書に記入してもらっている。また、男性利用者の居室にはのれんが掛けられていて、他の利用者の目に触れることがないように配慮されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームで定められた日課等を設けず、利用者一人ひとりの状態やペースに合わせて日々を過ごすことができるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルにつき、同じ食事を食べている。また、利用者には自身でできる範囲内で、片付けなどを手伝ってもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週に3日は入浴できるようにしている。なお、利用者の希望や状態に応じて、ホームに隣接する特別養護老人ホームやデイサービスの浴室を利用できるような体制になっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の意向を大切にしながら、ホームでの役割としてご飯の盛り付けや洗濯物たたみ、お茶出しなどしてもらい、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の行事(みかん狩りや花見など)を定期的に行い、外出の機会を作っている。また、天気が良ければ近くに散歩などにも出かけるなど、日常的な外出支援を行っている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けないケアを実践している。利用者が外に出そうな様子に気が付いたら職員と一緒についていくなど、安全面に配慮している。また、近隣の障害者福祉施設や近隣の方々と日ごろから関わりを持ち、見守りや声かけ、連絡を入れてもらう関係がつけられている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や近隣の福祉施設や住民代表に来ていただき2ヶ月に1回のペースで避難訓練を行っている。災害時には地域の方々の協力を得られるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士が食事のカロリーを計算しており、食事内容についてのチェックをしている。また、食事の取れていない方や水分摂取量の少ない方に対しては、運営母体の特別養護老人ホームより看護師に来てもらい、必要な対処をするなど、利用者一人ひとりの状態に応じた必要な支援をしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム内は、居心地よく過ごせるように広く空間スペースを確保している。また、採光も良く、ホーム全体が明るい雰囲気である。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には利用者の使い慣れたものや仏壇などが置かれている。利用者が居室で居心地よく過ごせるよう、好みのもを持ち込めるよう配慮している。</p>		